

## 郷土を愛し、学び合い伝え合う！ 稲田郷土史会の取組

### 創立50周年を迎えた稲田郷土史会



▲ 創立50周年の展示会&イベント

稲田郷土史会(以降「同会」と略します)は1967(S42)年4月に創立し、昨年、50周年を迎えました。川崎市内有数の郷土史研究団体として多摩区を中心に活動しています。

5月22日、多摩図書館へ伺い同会会長の鶴見邦男さんと役員の内平林勤さんから同会の活動について伺いました。

例会を原則毎月第3日曜日に行い、「歴史、民俗、考古、地名、産物など地域のテーマを研究」「遺跡、史跡や文書、民俗資料など文化財の保護活動」「定期的に史跡見学会を実施」「講座や相談会など地域連携を通じて郷土史を普及」「機関誌『あゆたか』を刊行」等の活動を行っています。

同会の設立当時は、都市化が進み、ベッドタウンとして人口がどんどん増えていきました。新しく入った人たちは、自分のふるさととなるため、郷土の歴史を知りたいと思う人のニーズがとてもありました。同会発足からの最初の10年間は、特に文化財の発掘や保護活動に奔走したり、自然保護の陳情をしたりする活動をすすめていました。



▲ 鶴見さん(左)と平林さん

### 史跡見学会や多摩区郷土史入門講座

同会は市内外をめぐる「史跡見学会」をはじめ、多摩図書館と協力しながら、「多摩区郷土史入門講座」「ふるさとなんでも相談」等を毎年行っています。「多摩区郷土史入門講座」では、毎年さまざまなテーマで郷土の歴史を市民に紹介しています。



▲ 多摩区郷土史入門講座



▲ 史跡見学会(香林寺五重塔)

### ふるさとなんでも相談

毎年、8月上旬に多摩図書館と共催で行われている「ふるさとなんでも相談」では、同会のメンバーが対応しています。ちょうど子どもたちは夏休み期間中なので、自由研究のテーマとして「地域の歴史や文化」について調べることが多く、相談に対応しています。同会のメンバーが、調べる観点や資料の扱い方等を適切に助言したおかげで、昨年相談に来た児童の作品が川崎市立小学校社会科作品展で参考作品として選ばれました。



▲ 自由研究の相談を受ける同会のみなさん

### 価値ある機関誌「あゆたか」

同会では、毎年機関誌「あゆたか」を刊行しています。昨年、創立50周年記念号(55号)を刊行しました。表紙には昭和30年代の何処でもよく見られた「田植え」の写真(両親が見守る中、手つき良く苗を植える兄弟)が掲載されています。



▲ あゆたか創立50周年記念号

同会の歴史はもちろんのこと川崎の歴史を知ることのできる価値ある貴重な郷土資料となっています。刊行された号には特集も掲載されており、「郷土の歴史を知りたい」と、創刊号から購入する人もいます。

#### ※誌名「あゆたか」の由来

鮎鷹(あゆたか)は「かもめ」科の渡り鳥で、和名はコアジサシです。相模川や酒匂川では「鮎サシ」と云っていますが、多摩川だけが鮎鷹と呼ぶのは水中の小鮎を空中より垂直に落下して鷹のように一瞬に攫(さら)いゆくからと云われています。鮎サシより鮎鷹の方が力強く面白いと引き継がれています。

### 貴重な資料を後世に残していきたい

鶴見さんや平林さんは、「先人の残した貴重な資料を整理すること」「資料を保管する場所(資料館)を確保すること」「地元で育った郷土を愛する後継者を育てたい」など、これからの同会の運営や抱負について話されていました。

■ 問合せ inadakyoudo@gmail.com